

●雑詠（俳句で日記） 九二年七月十月

梅雨晴れて 風と畑と 夕焼けと

梅雨晴れて 老後の苦悩 思いやる

夕焼けの 無性に哀し 梅雨晴れや

未婚娘が 三十となる月夜 深酒す

クラシック 想いは青春（はる）の 日に帰る

クラシック 聞きつつ霧の なかに居り

青春（はる） 想う 嶺の頂き 夏残照

炎熱の下界 爽涼の頂上 御嶽山

汗拭きて 空見上げれば うろこ雲

お地蔵に 何を想うか イラン人

朝夕に 父母に祈る 歳となる

神社より お寺の方を 懐かしむ

夕映えに 魂までも 赤くなり

子供らは 子供らの道 処暑の月

この妻の 老後を想う 処暑の月

帰らざる 遠き日想う 峰の風

若き日に 夢見し跡の 草いきれ

山小屋は 新しくなり 遠い夏